



新訂増補 母子と家族への援助—妊娠と出産の精神医学—
子どもの育ち—

吉田敬子 著
金剛出版
2024年5月 230頁
本体価格 3,400円+税

本書は、児童青年期精神医学や周産期メンタルヘルスの領域で長く指導的な役割を果たしてきた著者が2000年に出版した『母子と家族への援助—妊娠と出産の精神医学—』の新訂増補版である。この領域で四半世紀の間に得られた最新の知見を加筆し大幅に改訂され、周産期メンタルヘルスにおける臨床実践のスタンダードといえる著者の集大成の1つである。50ページ程度増えたにもかかわらず、定価は初版から200円上がるにとどまり、この領域にかかわるのであれば、一度は目を通しておきたい1冊になっている。

著者は、医学部を卒業後、小児科や精神科で10年近く勤務した後、1988～1997年までの10年近く、母子精神保健で定評のあるロンドンのモーズレー病院に留学し、周産期メンタルヘルスの世界的なパイオニアであるロンドン大学精神医学研究所のChanni Kumar先生を中心としたグループに集まった世界各国のアクティブな若手研究者の一人として産後うつ病の研究に加わり、帰国間もない時期に本書の初版を執筆した。ハードカバーの初版のカバー画は、Pablo Picassoの晩年の作品である“Maternity”で、オレンジ色が主体の表紙に赤紫のタイトルで前衛的な印象を受ける。初版が出版されたころは、医療スタッフや専門家の間でさえ、周産期メンタルヘルスに関する正しい知識が浸透しているとは言い難かった。著者が帰国した1990年代以後、わが国でも周産期メンタルヘルスに関する重要性が少しずつ認識された。3つの質問票〔育児支援チェックリスト・エジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）・赤ちゃんへの気持ち質問票）などを活用した、福岡県を中心とし

た著者らの周産期メンタルヘルスの支援体制整備は、全国へと広がった。四半世紀近く経て発行された新訂増補版のカバー画は、「母と子」「女性」をテーマとした作品が多い、印象派のMary Cassattの“Mother About to Wash Her Sleepy Child”で、落ち着いた雰囲気ソフトカバーで、著者の心境の変化がうかがわれる。

これまで著者らが取り組んできた周産期メンタルヘルスの支援体制整備の成果は、サブタイトルの変化だけでなく、構成にも反映されている。妊娠や出産がどのようにとらえられているか、妊娠と出産の心理的問題と精神障害、出産後の精神障害、精神薬物治療と妊娠・母乳栄養など、四半世紀を超えて普遍的なテーマとして初版と同様の章立ても多い。その一方で、本書の序論で、アタッチメントの問題を精神医学はどのようにとらえるかについて述べ、さらに妊産婦にみられるライフイベントとストレスケア、育児支援におけるカウンセリング、ボンディング障害、子どもを失った家族への精神的ケアなど、ライフステージをおとした心理や保健の領域からの支援体制整備に向けた内容も含まれている。初版では、母親の精神障害が育児および子どもの発達に及ぼす影響について述べられていたが、新訂増補版では母子相互作用と子どもの発達の予後への影響という、より広範囲な内容になっている。妊産婦への向精神薬の使い方の章も新設され、一般の精神科医にとっても有用である。

本書により、周産期メンタルヘルスを取り巻く国内外のさまざまな課題について概観できる。著者の自験例を含め、全体的に多くの事例とその解説が述べられている点は初版と変わりなく、具体的でイメージしやすい。新訂増補版では最近のトピックなどをノートとして別枠で説明している。ほとんどの精神疾患は、遺伝と環境の双方の要因がさまざまに影響し合って発症することが想定されており、周産期メンタルヘルスへの理解は、精神科診療を行うすべての関係者にとって理解しておかなければならない必須事項の1つと言える。本書は、メンタルヘルスにかかわるさまざまな立場の関係者が、周産期メンタルヘルスの理解を高めることに貢献できるであろう。

(高橋秀俊)